



THE GLOBAL GOALS

For Sustainable Development

Integrating the SDGs with Business

SDG 企業戦略フォーラムからビジネスリーダーへのインサイト

「持続可能な開発目標 (SDGs)」は2015年9月に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ (アジェンダ2030)」の中核をなす世界共通の目標群です。

SDGsの達成には、先進国、開発途上国を問わず全世界が取り組む必要があり、政府や自治体等のパブリックセクターだけでなく、企業等のプライベートセクターも積極的に関与していくべきであるという考えが浸透してきている現状には、大きな前進が見られます。

貧困、格差及び環境悪化等から生ずる社会の不安定化は、持続可能な開発を妨げるだけでなく、企業の健全な成長にも深刻な悪影響を及ぼす可能性が高いため、企業としては政府任せにせず、より積極的かつ戦略的にこうした課題の解決に取り組むのが得策です。

私は、2016年10月に国際連合大学の上級副学長に就任するにあたり、SDGs達成に向けた取り組みの強化、特にグローバル規模で活動する企業が自社の長期ビジョンや戦略にアジェンダ2030及びSDGsの考え方を積極的に取り込んでいけるような活動を支援したいと考えました。

そこで、2017年10月、企業の経営層、戦略部門を主な対象として、企業20社によるSDG企業戦略フォーラムを国連大学の本部のある日本で立ち上げました。SDG企業戦略フォーラムでは、SDGs / ESG(環境・社会・ガバナンス)に関するキーパーソン(政府機関、知事、年金運用機関、ESGインデックス会社、企業経営者、コンサルタント、NGO等)及び参加企業間の対話を1年半、約20回にわたって続けてきました。

対話を通じて、企業によるSDGs推進にあたり、以下の問題意識が出てきました。

- SDGsの理解には、人権や人の尊厳を尊重し、経済、社会および環境という持続可能な開発の3側面を調和させ、すべての人々の生活を大いに改善し、より良い世界へと変革しようというアジェンダ2030の趣旨を深く理解し、企業の独りよがりな活動にならないようにする必要がある。
- 社会が持続可能でなければ、企業の存続自体も危ぶまれる。
- 各社の長期ビジョンへのSDGsの組み込みが、長期的な

企業価値の向上に向けた積極的な活動として社会から評価されようになり、優秀な人材のリクルートにもプラスの効果を持っている。

- 一方で、SDGsのターゲットや指標はマクロレベルの内容が多く、企業が単独又は数社で関与したとしても、その達成度や貢献度の評価は難しい。
- SDGsが多岐にわたる中、相乗効果(シナジー)も期待できる一方で二律背反(トレードオフ)となる可能性もある。企業はそれらを十分意識して取り組みを進める必要がある。
- 社会が急激に変化する中、SDGsに明記された目標やターゲットのみに取り組むのではなく、既存の枠組みに必ずしもとらわれず、現時点で存在するがSDGsに掲げられていない課題や将来世界が直面するであろう潜在的課題についても、企業は率先して取り組んでいくべきである。

そこで、SDG企業戦略フォーラムでは、アジェンダ2030の趣旨に基づく持続可能な社会構築への企業による主体的な貢献を目指し、3つのインサイト“Focus on the Agenda”, “Align with the Targets”, “The Goals and Beyond”を提案いたします。

これらのインサイトは主に企業向けですが、持続可能な社会の構築には、企業以外のステークホルダーとの協力・協業(パートナーシップ)が鍵となります。

これらのインサイトをきっかけとして、各ステークホルダーとの活発な連携や対話が進み、持続可能な開発をリードする世界の「プレーヤー」として活躍する企業が増え、アジェンダ2030が描く、「よりよい未来」、すべての人々が自尊心と自己尊重感を持って暮らせる社会の構築に結びついていくことを期待しています。

2019年7月
SDG企業戦略フォーラム 座長
沖 大幹 国際連合大学上級副学長

Taika Oki



1 Focus on the Agenda アジェンダ2030を理解しよう

企業には自社のビジネスとSDGsの融合の重要性が強調されていますが、SDGsの目標にないスポーツやエンターテインメント、芸術、知的好奇心の充実、あるいは幸福感といったテーマを通じて社会に貢献している企業もあります。

既存の17のゴールの中に自社の主要事業との関連が見出しにくい場合、アジェンダ2030の趣旨を十分に踏まえた上で、各社が独自のゴールを設定すれば、アジェンダ2030の理解が更に深まるとともに、持続可能な社会作りを推進するプレーヤーとして積極的な役割を果たせるはずです。

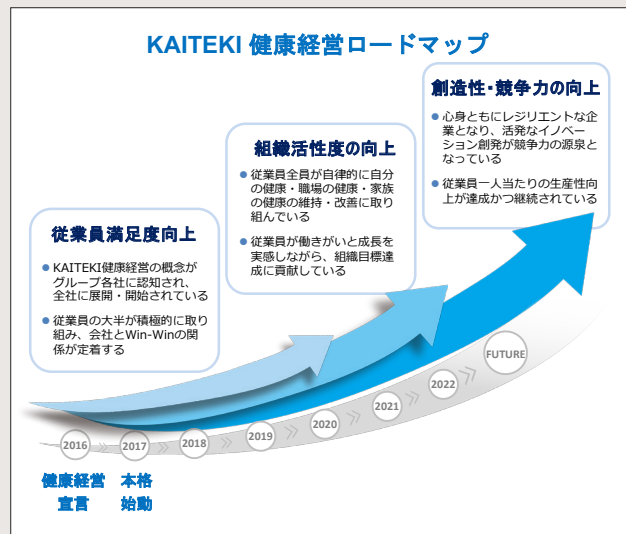
「いきいき活力指数」で働く人の創造性と生産性の向上を測定する

株式会社三菱ケミカルホールディングス

グローバル化、デジタル化、ソーシャル化などの大きな潮流の中で、組織における人の重要性はますます大きなものとなることが予想されます。企業が持続的成長をより確かなものとするためには、従業員の「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」を通じて創造性と生産性を向上させることが大切です。三菱ケミカルホールディングスグループでは、将来を担う人材の創造性・生産性を高めることを目指し、2017年よりKAITEKI健康経営を開始しています。社員の創造性・生産性に最も影響の大きい要素として、従業員の「やりがい」、「熱意」、組織への「信頼」と自身の「成長」実感の4つを特定した「いきいき活力指数」をはじめとし、「働き方指標」「健康指標」などの独自のKPIとその具体的な目標値を定めました。これ

からも経営の強いリーダーシップのもと、健康支援と働き方改革に関する施策を行っていきます。

詳しくは https://www.mitsubishichem-hd.co.jp/kaiteki-management/health_productivity_management/



Align with the Targets

自社の貢献に直結したターゲット、指標をつくっていこう

SDGsでは17のゴール、169のターゲット、232の指標が設定されています。それらはどれも重要ですが、その多くは、どちらかといえば政府や国際機関向けであり、一企業では取り組みにくいばかりでなく、企業の取り組みがそうしたターゲットや指標の達成にどの程度貢献したのかを測りにくくなっています。

健康寿命の延伸と医療費支出の抑制

オムロン株式会社

先進国での高齢化の加速や、新興国における生活習慣病患者の増加によって、世界中で医療費支出が増大しています。

特に、世界中で高血圧人口は増えており、高血圧を背景に脳・心血管疾患の患者数は年々増加しています。この疾患の発症は死に直結するだけでなく、一命をとりとめたとしても寝たきりや言語障害といった後遺症が残ることも多く、QoL(Quality of Life)の低下につながります。

オムロンのヘルスケア事業では、脳卒中や心不全、心筋梗塞など高血圧に起因する脳・心血管疾患(イベント)の発症を未然に防ぐ「ゼロイベント」をビジョンに掲げています。

具体的には2020年目標の一つとして「血圧計販売台数2500万台/年」とのサステナビリティ目標を掲げています。また、単に血圧計を販売することだけでなく、家庭で血圧を測る文化を醸成することが重要と考え、医師や医療関係者と連携してその普及・啓発に努めています。更に、血圧変動を連

続的に把握できる解析技術の確立も併せて目標に掲げること、生活習慣病の予防や治療に寄与し、健康増進を加速させ、健康寿命の延伸と、高騰する医療費支出の抑制という社会的課題の解決に貢献していきます。



フィリピン政府と提携して進む地域の健康プログラム

詳しくは

<https://www.omron.co.jp/sustainability/contribution/healthcare/>

<https://www.edge-link.omron.co.jp/news/136.html>

あらゆる組織において、達成度の可視化は組織のモチベーションを高め、更なるチャレンジを引き起こす好循環をもたらします。そこで、既存のターゲット及び指標を土台にしながらも、企業が自社の取り組みによるSDGsへの貢献度を可視化できる独自のターゲット、指標を作ってはいかがでしょうか。

インドにおける安全に管理された飲料水サービスの利用人口割合の向上

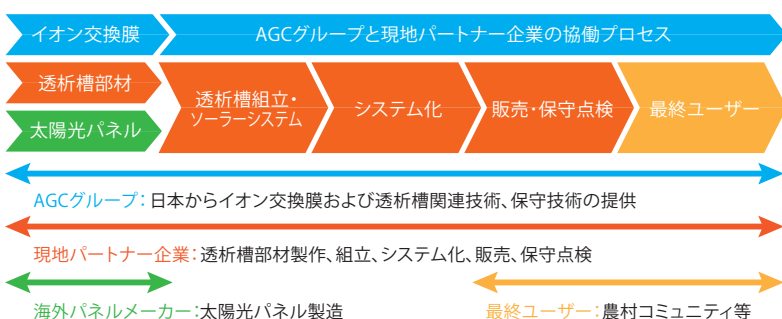
AGC 株式会社

AGCグループは、ガラス・電子・化学品・セラミックスの4つの事業領域でグローバルに事業活動を展開しています。「独自の素材・ソリューションで世界中の人々の暮らしを支える」という使命の下、事業戦略上重要な市場であるインドのマハラシュトラ州にて、地下水汚染の課題を抱える農村を対象に、太陽光発電とイオン交換膜を用いた電気透析浄水システムによる飲料水供給ビジネスの展開を検討してい

ます。40%が干ばつ頻発地域という深刻な状況にある同州では、地下水の過剰取水による地下水低下や砒素、硝酸塩等の化学物質による地下水汚染が起こっており、農村地域における水利用の効率化と安全な飲料水へのアクセス向上が大きな課題です。この課題に対し、地下水から化学物質汚染を除去することのできる電気透析浄水システムを導入・普及させることによって、2030年までに同州における

安全に管理された飲料水サービスの利用人口割合を現状の83%から100%へ向上させることに貢献したいと考えています。将来的には、インド政府や地域コミュニティと協働しながらこの活動をインド全土や周辺国へ拡大していくことも視野に入れています。

スキーム図



詳しくは <https://www.agc.com/csr/index.html>

3 The Goals and Beyond

これからの世界が解決すべき課題を設定し、主体的に関わろう

SDGsが掲げる目標はどれも重要です。一方、社会が急速に変化する中、先進国を中心に、急速な高齢化、若年層の肥満や糖尿病への対応など、新たな課題が生じつつあります。これらの課題は、現在のSDGsでは明示的には取り扱われていませんが、グローバル化に伴い、新興国を含めた多くの国でも将来深刻な課題となるのは確実であり、持続可能な開発という視点からは避けて通れません。これからの時代は、与えられた課題を解決するだけでなく、新しい課題を設定する力が求められます。そこで、企業は、将来世界が解決すべき潜在的な課題を先行して設定し、先導してその解決に主体的に取り組めれば、持続可能な社会作りの主要なプレーヤーとして活躍できるはずです。

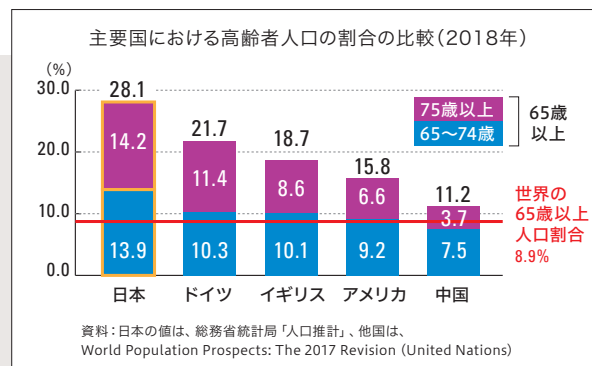
超高齢社会を支える

花王株式会社

花王は、売上げの約6割を日本市場に持つ日用品メーカーです。日本の高齢化率は世界で最も高く2018年で28.1%です。そこで花王は、高齢者が心身ともに健康で暮らせるよう、さまざまな製品やサービスを開発し、提供しています。

日本国内では、尿モレに不安のあるアクティブシニアが、紙パンツを使用するときに重視する点について、約85%の方が「見た目が下着のようであること」を挙げています。そこで花王では、ファッション性が高く、下着のように使える、超うす型の使いきり吸水パンツを開発しました。2009年から発売し、アクティブシニアとその家族の豊かな日常生活を支える製品を改良を重ねながら提供し続けています。この超うす型吸水パンツは他社からも同様の

詳しくは <https://www.kao.co.jp/relief/index.html>



コンセプトを持つ製品が次々と発売され、2018年には日本国内市場において推計38億円、前年比121%の市場へと拡大中です(花王調べ)。花王は今後、新興国を中心にグローバルで高齢化が進むと予見される中、基本となる価値観である「よきモノづくり」を通して全ての人の尊厳ある生活をサポートします。

SDG 企業戦略フォーラム参加企業一覧 (五十音順)

AGC

AEON

OMRON



kaō

自然と調和する ところ豊かな毎日をめざして

SUNTORY

JXTG
Group

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

大和証券
グループ

TOPPAN

TOYOTA

ひとの
ときを、
想う。 **JT**

HITACHI
Inspire the Next

FUJIFILM
Value from Innovation

Marubeni

 **三菱ケミカルホールディングス**
KAITEKI Value for Tomorrow

 **三菱商事**

今日を愛する。
LION

 **RECRUIT**



THE GLOBAL GOALS

For Sustainable Development



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

国際連合大学

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
Tel: +81 3 5467-1212 Fax: +81 3 3499-2828

本書の著作権は国際連合大学SDG企業戦略フォーラムに帰属します。ダウンロードやコピーは自由ですが「国際連合大学SDG企業戦略フォーラム」と出典を明記ください。

Copyright © 2019 United Nations University

2019.07